PRESS RELEASE

2020年3月18日
株式会社ゲンロン

ゲンロン叢書 | 005

新写真論
スマホと顔

大山顕 著

2020 3.24 発売!!!!!!!!!

株式会社ゲンロンは、大山顕 著『新写真論　スマホと顔』［ゲンロン叢書005］を2020年3月に出版します。現在、直販サイトにて予約受付中、3月24日（火）より書店発売です。

藤森照信氏 推薦!!

カメラという近代のもたらした
ブラックボックスについての初の省察。
謎は解けたのか?!

恩田陸氏 絶賛!!

すべてがスマホに撮られる時代、
それは顔（プライヴェート）と指がリスクになる世界だった。
我々が薄々感じていたことをコトバにした、
まさに「現在（いま）」の写真論。

もしかしたら写真は人間を必要としなくなるのではないか

写真は激変のまっただ中にある。「写真」という用語をあらためなければいけないとすら思っている。
これはスマートフォンとSNSによってもたらされた。その象徴が自撮りだ。

カメラと人間のいったいどちらが道具か、あやふやになっている。
今のところ「被写体を決めシャッターを押す」という主導権は
まだかろうじて人間が握っているように見えるが、人間はせいぜい「カメラ運搬係」にすぎないのではないか。

——「はじめに」より

スマートフォンは写真を変えた。だれもがカメラを持ち歩き、写真家はいらなくなった。すべての写真がクラウドにアップされ、写真屋もいらなくなった。写真の増殖にひとの手はいらなくなり、ひとは顔ばかりをシェアするようになった。

自撮りからドローン、ウェアラブルから顔認証、ラスベガスのテロから香港のデモまで、写真を変えるあらゆる話題を横断。工場写真の第一人者・大山顕の新刊は、圧倒的にスリリングな人間＝顔＝写真論です。
ぜひメディアでご紹介ください。

【著者紹介】
大山顕　おおやま・けん
写真家／ライター。1972年生まれ。工業地域を遊び場として育つ。千葉大学工学部卒業後、松下電器株式会社（現Panasonic）に入社。シンクタンク部門に10年間勤めた後、写真家として独立。出版、イベント主催なども行っている。著書に『工場萌え』（石井哲との共著、2007年）、『団地の見究』（2008年）、『ショッピングモールから考える』（東浩紀との共著、2016年）、『立体交差』（2019年）など。
Instagram: @ken_ohyama、Twitter: @sohsai、Facebook: 大山顕（Ken Ohyama）

【目次】

はじめに　写真を通じて「なぜそうするのか」を考える

スマホと顔
01　スクリーンショットとパノラマ写真
02　自撮りの写真論
03　幽霊化するカメラ
04　写真はなぜ小さいのか
05　証明／写真
06　自撮りを遺影に
07　妖精の写真と影

スクリーンショットと撮影者
08　航空写真と風景
09　あらゆる写真は自撮りだった
10　写真の現実味について
11　カメラを見ながら写真を撮る
12　撮影行為を溶かすSNS
13　御真影はスキャンだった

写真は誰のものか
14　家族写真のゆくえ
15　「見る」から「処理」へ
16　写真を変えた猫
17　ドローン兵器とSNS
18　Googleがあなたの思い出を決める
19　写真から「隔たり」がなくなり、
　　人はネットワーク機器になる
20　写真は誰のものか

ファサード
21　2017年10月1日、ラスベガスにて
22　香港スキャニング
23　香港のデモ・顔の欲望とリスク

おわりに
初出一覧

【無料生放送】開催決定!!

大山顕『新写真論』刊行記念!
2020年3月23日（月）19:00〜

「顔」と「指」から読み解くスマホ時代の写真論
——顔と指が媒介するのはウイルスだけじゃない!
無観客のカフェで、工場写真家・大山顕が新著片手におおいに語る。
https://live2.nicovideo.jp/watch/lv324739143

【書籍紹介】

大山顕 著『新写真論　スマホと顔』［ゲンロン叢書005］
｜サイズ｜ソフトカバー・四六判
｜ページ数｜320ページ（カラーグラビア8ページ）
｜ISBN コード｜978-4-907188-35-1
｜定価｜2400円+税
｜発売日｜2020 年3月24日
｜装幀｜川名潤
｜電子版｜あり（近日配信予定）
｜発行所｜株式会社ゲンロン　https://genron.co.jp/

ゲンロンショップ『新写真論』直販サイト→

お問い合わせ先: 株式会社ゲンロン 担当: 横山宏介　info@genron.co.jp
東京都品川区西五反田1-16-6 イルモンドビル2F　Tel 03-6417-9230